

「いのちをいただいて つなぐこと」

講師 内田美智子氏

13歳少女

命をみつめて

みなさんは、本当の幸せって、何んだと思いますか、
それは、地位でも、名誉でも、お金でもなく、
「今、生きている」ということなんです。

私は、小学6年生のときに、骨肉腫という、骨のがんが
発見され、約一年半に及ぶ、闘病生活を送りました。
この時、医師に病気に負けたら命がないと言われ、
右足を太ももから切断しなければならぬと厳しい
宣告を受けました。

初めは、とてつもないショックでしたが、必ず「勝つてみせると
決意し、希望だけを胸に、真向から病気と闘ってきました。
しかし、あまりにも現実には、厳しく、なかまは一瞬にして
亡っていかれ、生き続けることが、これほど困難で、これほど

偉大なものかということ、思い知らされました。

私がはっきりに感じたのは、健康なまからただで
学校に通ったり、家族や友達とあたりまえのように
毎日過ごすということ、これが、どれほど幸せなことか
ということでした。

たとえ、どんなに困難な壁にぶつかって、悩んだり
苦しんだりしたとしても、命さえあれば必ず前に進んでいけるんです。

「ママが がんじゃなくて、私のがんで本当によかった」

※ 肺にもがんの転移がわかり、あと半年しか生きられないことがわかったとき、がんと闘う決意を固め、お母さんにかけてたことばです。

「ママ、これくらいのことでは、泣かんで、私は、ただ両手と両足が動かないだけ。首と背骨が、がんでつぶれているだけ。

口の中にがんがあるだけ。心は、がんに侵されてはいから自由で幸せ

世の中には、五体満足でも

心が侵されている人がいてかわいそう。

※ 寝たきりになった瞳ちゃんのそばで何もしてあげられないお母さんが、泣き崩れた時に、瞳ちゃんが、お母さんにかけてたことば。

「骨は、がんにおかされても心までは、おかされてはいよ」

※ 闘病生活で、瞳ちゃんの口癖でした。

「命さえあれば、必ず前に進んでいく。」

猿渡 瞳

産まれることのない命があります。

生きられない命があります。

生きてきたこと、生きることをすべて奇跡

私達も限られた命しかありません。

(親より先に死んではいけない、自ら命を絶ってはいけない。

これからどう生きていきますか？これから先はみなさんしだいです。

自分の思い通りに生きてくださいね。



***こんな言葉が……**

- 行動が変わると 人生が変わる 自分の人生は 自分で切り開きます
切り開きましょう ひり開きます
思い通りの人生は 自分にしか 叶えられない……
- 何もしなければ 今日と昨日は同じ
今日と昨日は違う 何もしない日はなかった すべては明日のために
- 「生」の反対は、「生まれないこと」と教えてくれた人がいます。
- 人はそこに居るだけで「価値」がある

生中通信「こしぼね」にも書いていますが、みんなの心の中に、いろいろなメッセージを届けていただきました。